

# 研究者の横顔

フリガナ

サエキ イサム

お名前

佐伯 勇

助成金額

50 万円

ご所属

広島大学病院 周産母子センター 講師

研究テーマ

小児がんにおけるVirtual Realityを活用したデジタルメディシン開発

## 1：研究者になろうとしたきっかけ

2012年に親の介護のために帰郷して一般病院勤務となり、一度は大学での研究活動は諦めていました。しかし、2020年コロナ禍で大学病院勤務を再開することになり、対人技能を磨けない学生たちのためにVRで診察トレーニングソフトを開発するにあたり、今後は大学病院においてもVRを用いた研究が主流になるのではないか…?と考えました。そして、VRと医学を融合させていく研究を現在多く手掛けています。

## 2：助成研究の内容紹介

VRは現在、「治療器具」として注目を浴び始めています。特に小児ではVRの感受性が高いことが分かってきており、痛みや不安を和らげる目的で世界中で活用されています。その効果を治療に活かし、小児がんの子ども達がVRで抗がん剤の力を借りながらがん細胞をやっつける体験をしたり、クイズで体やがんのことを学んだりすることで、前向きにがん立ち向かってもらう。小児がんの子ども達の生きる力を引きだす！というのが本プロジェクトの内容です。講談社「はたらく細胞」にご協力いただき、VRゲームを作成し、実際に小児がんの子ども達にプレイしてもらう研究を予定しています。

## 3：2の将来に繋がる結果予想・目標

「VRはたらく細胞」をプレイすることで、小児がんの子ども達へのメンタルケアを行うことができる。そしてそれだけではなく、実際に副作用の軽減効果、それによる治療効果の向上を見込んでいる。現在VRが治療として用いられ始め、デジタルの薬「デジタルメディシン」と認識され始めている。本プロジェクトは、小児がんにおける世界初のデジタルメディシン創出を行うプロジェクトであり、今後本邦の様々な分野におけるデジタルメディシン創出の第一歩になるものと期待している。

## 4：全国のRFL関係者に一言メッセージ

本研究は小児がんを対象としていますが、実際にがんの治療を受けている患者さんの中には、「もっと治療について知りたい！治療へのモチベーションを高めたい！」と思っている方が成人にもたくさんいると思っています。本研究で作成している「VRはたらく細胞」を、より多くの人にプレイしていただき、力になってもらえると嬉しいです。